



生かされ、生きるチカラ。

## 悪質商法の魔の手から 市民を守りたい

大船教会 鶴岡里依子さん

鶴岡里依子さんは、横浜市消費生活応援隊として悪質商法の魔の手から県民を守る活動に力を注いでいる。具体的には、自治会・町内会や地区センター、視覚障害者福祉協会などで「楽しくてためになる講座」と題し、様々な職種、団体、年齢層の方々に理解してもらうために、手作りの紙芝居やカルタクイズ、〇×クイズを使って、訪問購入や振り込め詐欺などに対して注意を喚起している。この活動は着実に成果をあげ、被害を未然に防げた人びとから喜びの声が寄せられている。「こうした反響はこの上ない喜び。人前で話すことも、紙芝居やカルタクイズを企画できることも、多くのご縁のおかげさま。ほんとうに感謝です」と語る鶴岡さんはいま、ご縁を得た恩返しの意味を込め、「もっと地域のお役に立てるように」と念じながら活動に励んでいる。



## 無名の人びとは国の宝

格差社会といわれる昨今、人に抜きん出て出世したり成功したりすることが、多くの人の生きる目的になっているような風潮もあります。ただ、華々しい活躍とは無縁の、いわば無名の人を「負け組」と呼んだりする社会は、どこか間違っている気がします。日本は、昔から匠の技で世界に知られています。私たちが使う身近な道具も、科学の粋を集めた宇宙ロケットも、それらをつくる職人さんや技術者は、昔もいまも「人の役に立つものをつくらう」との思いで、技術を磨く努力を重ねてきたはずです。

その思いは、「布施の心」(人に施しめぐむころ)がその原点にあるといえます。名声やお金ではなく、生きる目的がそのように定まると、世間でいう「負け組」などというレッテルは意味をなさなくなります。何も卑下することなく、いつでも、自信と誇りをもつて生きられます。

伝教大師は「隅を照らす 此れ則ち国宝なり」といわれました。布施に生きる無名の一人ひとりこそ、家庭から国家に至るすべての場で、真に有力な人といえるのです。

## 立正佼成会